

『本人の思いの意味を知る』

～その意味をどう共有するのか～

- ◆日時：9月9日（日）13:00～17:00
- ◆会場：港区立障害保健福祉センター 竹芝小ホール
- ◆テーマ：『本人の思いの意味を知る』～その意味をどう共有するのか～
 - 実践報告1. 「重症心身障害者入所施設利用者Sさんの地域生活への第一歩」
国分寺市障害者センター生活介護事業太陽 生活支援員 大原勝真氏
(東京都 社会福祉法人万葉の里)
 - 実践報告2. 「激しいパニックを頻発する自閉症女性への関係支援」
自閉症支援施設さつき学園 生活支援員 矢田和美氏
(静岡県 社会福祉法人ふじの郷)
- ◆コメンテーター 加藤啓一郎氏（大阪府 社会福祉法人水仙福祉会 サポート研会員）
小林 博氏（神奈川県 社会福祉法人藤沢育成会 サポート研会員）
金沢信一氏（サポート研会員）
- ◆参加費：サポート研会員は無料 それ以外の方は1,000円（資料代など）

開催趣旨

「どんな行動にも意味がある」と言われます。昨年度から始まったサポート研東京セミナーでは支援の実践事例の報告を受けとめ、とことん議論を行い、検証し、特にその支援の質、本人にとっての意味を改めて問うことを目的としています。これは事例報告をする側には随分厳しいことですが「本人中心支援＝本人にとってより良い支援を行う」という立場から他の支援についての見方に触れ、本人にとっての意味の理解を試み、支援を問い直す試みは極めて有益ではないでしょうか。

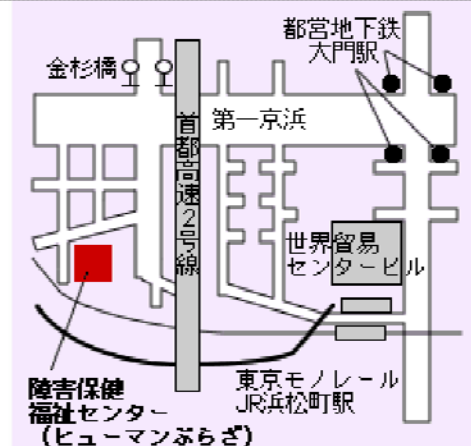
支援者が主体である本人をどう受けとめ、支援として行っているものが本人にはどう感じられているのか。支援者の側に絶えず本人にとっての意味の検証が無ければ支援は本人の自己決定から乖離し、支援者の大変押し付けがましい独善になりかねません。これまで通りの支援者の決定が本人の決定とされることも起こるでしょう。

量的に平準化された支援、パターン化された思考から抜け出し、いかにして本人にとってより望ましい支援の質を求めのかが現在の状況に於ける支援者の喫緊の課題です。

支援の質が本人に影響は無いのかと言えば、障害を抱え絶えず支援を受けざるを得ない本人にとって支援の質はどう考えても極めて切実です。支援者は本人の日々の思いに耳を傾け、十分に受けとめることが出来ているでしょうか。安全基地＝好ましい情動が往還し、信頼できる他者との間に形成される素朴な関係性こそ障害有無にかかわらず人が生きて暮らすために重要です。二次的に生じるとされる行動障害の問題などは支援の質、支援者との関係性により解消（抑制ではない）されることも多いです。支援者とのコミュニケーションの問題は、本人との周囲の思いの意味のズレ、共有する意味のズレといった視線の共有の問題でもあり、支援の重要なポイントです。つまり支援に於いて重要な鍵概念は「関係性」であり、今回もその様な点に着目し、支援について検証を試みたいと考えます。

【当日のプログラム】

- 12:30 受付開始
- 13:00 開会あいさつ 赤塚光子（サポート研会長）
- 13:05 趣旨説明 金沢信一（サポート研会員）
- 13:25 実践報告1
- 14:55 休憩
- 15:10 実践報告2
- 16:40 まとめ
- 17:00 終了…懇親会も予定していますのでぜひご参加ください
司会進行は松永徹（サポート研副会長）



お申し込みは裏面ファックスかメールで...

サポート研 東京セミナーに申し込みます（参加費は当日お支払いください。）
このままFAX して下さい。044-271-8788（サポート研事務局宛て）
なおご不明の点などありましたらサポート研ホームページからメールにてご連絡ください。

お名前		
所属事業所名		
連絡先	電話	メール
所属（記入または○をつける）	① 第 研究会 あるいは ②所属していない ③会員でない	

※サポート研ホームページは <http://support.ryoiku-c.com/>
メールは support-ken@forest.ocne.ne.jp